

会議録

会議の名称	第4回加東市まちづくり推進市民会議		
開催日時	平成27年3月20日（金）午後3時～午後5時15分		
開催場所	加東市役所 2階 201会議室		
議長の氏名	（座長 梅野巨利）		
出席及び欠席委員の氏名	<出席委員> ・佐治真喜子 ・梅野巨利 ・遠藤久男 ・内藤直子 ・藤本善仁 ・佐々木正利 ・稲岡みさ子 ・近松照芳 ・永崎久雄 ・水口正昭 ・宮崎良平 ・横山和夫 ・豊福乃子 ・広畑恒子 <欠席委員> ・大野美智子 ・小原秀司 ・前田友子 ・増田正一		
出席した事務局職員の氏名及びその職名	・企画部長 芹生修一 ・企画部企画政策課長 陰山昌平 ・企画部企画政策課副課長 三木秀仁 ・企画部企画政策課主査 小林寿泰		
説明者として出席した市の職員	・総務部長 時本敏行 ・地域整備部長 松本和久 ・教育部長 堀内千穂 ・総務課長 大西祥隆 ・社会福祉課長 堀田敬文 ・管理課長 服部紹吾 ・中央図書館長 片山公子 ・ケアホーム事務長 藤原優 ・福祉部長 丸山芳泰 ・建設部長 利山尚由 ・病院事業部事務局長 大橋武夫 ・財政課長 鈴木敏久 ・高齢介護課長 藤井康平 ・生涯学習課長 黒崎徳弘 ・病院医事課長 大橋博英 - 外12人 ・市民安全部長 阿江孝仁 ・上下水道部長 岡田孝志 ・税務課長 長谷川茂 ・子育て支援課長 山本京子 ・人権教育課長 広西英二 ・病院管理課長 柳博之		
1 議題	行財政改革の推進について		
2 会議資料	加東市行財政改革推進計画（案）		
3 会議の経過	⇒別紙「第4回加東市まちづくり推進市民会議・会議の経過」のとおり		
平成27年5月26日			
座長 梅野巨利 副座長 佐々木正利 			

(別紙) 第4回加東市まちづくり推進市民会議・会議の経過

発言者	会 議 の 経 過 / 発 言 内 容
委員 課長 委員 部長 委員 課長 委員 副課長 委員 部長 委員 部長 委員 部長 委員 座長 委員	1 開会 事務局 2 挨拶 梅野座長 3 協議 (1) 加東市行財政改革推進計画(案)の概要説明 事務局 (2) 加東市行財政改革推進計画(案)による具体的な取組項目の説明 …(1)事務事業等の効率化・適正化〔P2～P11〕 担当部署職員からの説明 【質疑応答】 ○取組項目「公立保育園のあり方の検討」「公立幼稚園のあり方の検討」について ・2歳児までたくさん需要があって、3歳児以上が逆に需要が少ない原因は何か。 ・0・1・2歳の園児さんが年々増加しており、平成23年と平成26年とを比べると大体16人ほど増えている。 ・0・1・2歳児が、たまたまこの時期に増えたとか、出生率が高くなったとか一時的な現象でそうになっているのかが不明であるが、適正な対策を打つという意味では、その分析がもう少し必要ではないか。 ・0・1・2歳が多くなって、3歳から5歳までが余っているということではなくて、保育園は9割9分が埋まっており、幼稚園は5割ぐらしか埋まっておらず、その保育園と幼稚園のバランスが悪いことから、合わせて認定こども園としてバランスを保っていこうということである。 ・現在は、待機児童はないのか。 ・27年4月の段階で、待機児童はない。 ・幼稚園の定員に対する部屋の広さ、保育室とか遊戯室の広さが本当に定員と合っているかどうか、一度見に来ていただきたい。1クラス、35人定員になっているが、今23人で部屋はいっぱいである。ロッカーも足りない。充足率が足りないと言われるが、部屋に対する充足率を見ていただけたらと思う。 ・幼稚園の面積のことについては、幼稚園の設置基準というのがあり、それには適合している。 ・それは承知している。しかし、それがちゃんと合っているのか、活動する上で十分に足りているかどうかという確認は、行政のほうではされないのか。 ・現在の35の定員というのは少し多いという認識はしているが、増築というのはなかなか難しいので、定員を適正化していく中で、今後改善を図っていきたいと考えている。 ・取組内容の4行目の「複数の園の統合」とあるが、幼稚園は、保育所と統合とは書かれていないが、社幼稚園は認定こども園に移行されるので、もう一園は、保育園と統合ということか。 ・幼稚園と保育園、統合して幼保連携型の認定こども園として、新たなものを認定する。 ・「複数の園の統合」ではなく、「幼稚園と保育園」とはっきり明記しないのか。 ・平成27年度から平成29年度までの3か年の計画なので、そういった表現にとどめている。 ・認定こども園について、個人的にはあまりうれしくない。保育所の先生しかいないのに、認定こども園にすると言うから、どうするか聞いたところ、多分誰かがするのではないかと返答だったので、そういうところに、私はまだ検討する余地があったのではないと思う。準備ができていないのに、走り出してしまったのではないと思う。 ・こういう意見があるということを担当の方、含んでおいていただきたい。
委員	○取組項目「市税等の収納率向上及び滞納防止対策」について ・全体的なことであるが、指標を見ていると、大体0.1%ずつアップというような感じになっている。経験上、問題点を分析して対策を打てば、一気に上がる部分があるが、何か0.1%ずつやっているのが、毎年仕事をつくるような感じで、少し気になる。一気に上げられない理由というのとは何か。14番の介護保険料についてはどう

課長	か。
委員	・高齢者等、所得の少ない人が増加しており、徴収が難しいという事案が多くなっていることから、一気に上げることが難しい。
委員	・分析を十分した上で、目標値というのは、一気に果たせるように取り組んでいただきたい。
委員	○取組項目「公共施設の適正化」について ・時々、このような方向で進めるのであれば合併しない方が良かったというような声も聞こえてくる。地域の方が感情を害しているようなことも聞く。今後どのように展開していくのかということについて、大変関心が高いようであるが、公開するような情報はないのか。
副課長	・12月に公共施設適正配置計画案の内容をお知らせし、それ以降、市民説明会で説明してきた。また、パブリックコメントも実施し、その中でも特にコスミックホールの廃止の部分について、反対という意見が多かったが、やはり行財政改革の視点を踏まえると、合併によって同種の複数の施設が存在する中、効率的な運営をしていかなければいけないと考えている。今までから愛着を持って活動されてきた、そういう利用をされてきた施設がなくなることについては、当然、感情の部分もあるので、説明をしっかりとしていきながらできる限り合意を図っていきたいと考えている。
委員	・合併で同じような施設を複数持っているということについては、全国どこでも似たような問題であると思う。指定管理者制度を活用して生き残っている施設もないわけではないと思うが、住民の方々の猛烈的な反対を押し切って廃止していくことの今後の不安ということを、私は大変強く感じるが、そういう不安を踏まえた上での具体的な方向性というのは見つからないものなのか。
副課長	・ここで、どういった結論に持っていくという話は、できない部分があるので、参考にさせていただきながら合意形成を図っていったらと思っている。理解いただきたい。
委員	・大変難しいと思うが、今後も十分に地域住民との合意を図りながら進めていくということを基本にしていいただきたい。
… (2) 人事・組織管理の適正化から (4) 利便性の高い市民サービスの向上まで 〔P12～P19〕 担当部署職員から説明	
【質疑応答】	
委員	○取組項目「新たな財源等の確保」について
副館長	・活動指標を雑誌10冊と設定されているが、1冊の単価はどれぐらいなのか。
委員	・月刊誌、週刊誌など雑誌ごとに異なってくるが、平均して5,000円ぐらいから、高いものであれば2万円近くになるものもある。
副館長	・雑誌の単価ではなくて、利益の方の単価はどれぐらいなのか。
委員	・事業者に購入費用を負担してもらうので、雑誌の数のみを活動指標として設定している。
副館長	・広告掲載は、市でするのか。それとも事業者から広告を持ってくるということになるのか。
委員	・雑誌に透明のカバーをかけ、そのカバーの裏面に最大A4サイズの事業者から持ってこられた広告を差し込むという形になる。
副館長	・どれぐらいの収入を予想されているのか。
委員	・平均を5,000円とすれば、10冊で5万円ということになる。
主査	・この取組項目に関して、ほかに取組はないのか。
委員	・今回はこれしかあげていないが、今後も検討し、必要に応じて追加していきたいと考えている。
副館長	・雑誌スポンサー制度は、どこからのアイデアなのか。
	・近隣では加西市が導入しているので、その状況を拝見し、実施に踏み切った。

委員 課長	○取組項目「行政組織・機構の見直し」について ・小野市の流動的な組織であるグループ制などを参考にしてはどうかと思う。 ・グループ制についての検討も踏まえて、現在の部課長制をとっている。今回の機構改革についても、国の地方創生施策に迅速に対応するために行ったものであり、こういった対応により機動性というのも確保していきたいと考えている。
委員 課長	○取組項目「財政の健全化、財政構造の改善」について ・加東市の規模で財政上健全だと言われる状況というのは、財政指標で言えばどのような状態のことなのか。 ・実質公債費比率は、基準となる率が18.0%で、それ以上かそれ以下かということで判断することになるが、できれば低い方がよい。将来負担比率は、早期健全化基準として350%以下であればおおむね健全であると言えるが、加東市はこれを相当下回っているという状況である。
委員 課長	・近隣市と比較して加東市のレベルは、安心していいレベルなのか、それとも大変なのかということをお教えいただきたい。 ・財政指標で言えば、近隣では加東市を含めて5市あるが、実質公債費比率は、平成25年度では三木市いちばん良く、その次が加東市である。将来負担比率は、5市の中で加東市が一番低い水準である。
委員	○取組項目「病院事業の経営健全化」について ・平成24年度は特別利益があつて、医師が14人で黒字であつたということを記述されているが、この特別利益というのはどれくらいあつたのか。
委員 課長 委員 課長	○取組項目「国民健康保険特別会計の健全化」について ・ジェネリック医薬品の利用推奨ということを書かれているが、もっとこのジェネリック医薬品の利用推奨をしていけば、財政的にも非常に楽になるのではないか。 ・平成24年度に市から受けた特別利益は1億5,000万円である。 ・平成24年度の黒字額はいくらだったのか。 ・1,300万円程度の黒字であつた。
委員 課長	○取組項目「介護保険事業特別会計の健全化」について ・第5期では、兵庫県で一番高い保険料であつたということであるが、今後もこの高い水準を維持していかざるを得ないのか、もう少し詳しく教えてほしい。 ・高い原因としては、1人当たりの保険給付費が高かつたという状況がある。第6期については、介護予防事業の取組等を進め、最終確定ではないが、基準額を5,500円に落とす予定としている。
委員 課長	・加東市が特に高い理由、原因というのをもう少しわかりやすく教えていただきたい。高齢者が多い、要介護者が多いということなのか。 ・他市に比べて多いということではない。ただ、1人当たりの給付費が近隣よりも高かつたという状況である。また、基金の借入分もあり、保険料が高くなつた。第5期ではその分をきっちり精算しているので、第6期ではその分を外すことができた。
委員 課長	○取組項目「予算編成手法の工夫」について ・新たな予算編成手法の検討と載っているが、平成20年度から続いた枠配当予算の実施が行われるだけで、これで成果指標を出せるとは言えないのではないか。 ・新たな予算編成の手法となると、例えば部ごとの予算の配当などが考えられるが、現予算がどうしても款項目と言って、決められた予算の組み立て方があり、事業との組み合わせ方が非常に複雑になるので、先進地でも相当苦労されているようである。それらを踏まえ、今後考えていかなければいけないと思っている。
委員 主査	・そういうことであれば、取組項目のタイトルを変えた方がいいのではないか。 ・タイトル変更について検討する。
委員	○取組項目「公共施設の適正化」について ・今やられていることは賛成であるが、いろんな波紋が広がっているという

副課長	現状、手法に何か足りない部分があるのではないかと考えている。施設の使用状況、年間に借地代がどれくらいかかっているのか、各学校の児童生徒の人数、そういう情報の公開はされているのか。 ・市民説明会の中では、個々具体の数値的なものは出しにくい状況の部分もあった。もう一つ踏み込んだところで説明なり理解を深めていただくという部分では、個々具体の数値的なもの、客観的に判断いただける数値というようなものをどんどん出していった上で議論を深めていただけたらと考えている。そのような数値に基づいて計画的なものを立てているが、そこが見えないという部分は確かにあるのかなと思っており、今後、明らかにできる部分は積極的に明らかにしていきながら、議論いただけたらと考えている。また、個々の具体的な数値は、平成24年に策定した公共施設マネジメント白書にある程度載せており、ホームページ等で公開している。
委員	・情報を公開して、何が必要で、どこにどういう経費が使われるのかを市民の皆さんが知った上で、方法を決めていくのがいいと思うが、逆になっているから、こういう大きな波紋が出たと思う。それと、加東市の財政状況について、市民がどれだけ理解しているか。将来的に加東市の財政が非常に苦しくなる。国の財政自体も非常に苦しくなる。その上で、やはり統廃合をしていかないと、今から10年先、20年先、そこで暮らしていく若い人たちが生活できなくなる。そういうところをきっちり説明した上で、こういう統廃合の話をするべきではなかったのかなと思う。
部長	・そういった質問をこれまでもたくさんいただいている。私どものスタンスとしては、総論の部分は、十分説明をさせていただいたと認識している。市政懇談会であったり、広報かとうでの5回のシリーズにわたっての紹介、また、ケーブルテレビの特別番組など、1年半ぐらいかけて取り組んできた。12月に初めて個々の計画を出させていただいたときに、市民の方は突然出たとか、一方的に計画を立てられたというような意見がほとんどであったが、10年間の計画の中で事業費や年度計画を含め、今後どうしていくかということを示すことは、市の責任としてやるべきことだと思う。個々の施設について、どうしていくべきかを聞いていくことよりも、まず市の考え方を市民の方にお示しをする、そういうスタンスで今回やらせていただいた。特定の施設や特定の制度について多くの意見をいただいているが、市民説明会の最後の日、議会の特別委員会、また、先月の広報かとうの中でも、私どもの示している案よりも、良いもの、効率的なものがあれば、是非お出しいただけたらというスタンスでやっているの、市が示した案よりもいいものがあれば、十分見直す機会もあるというふうに思っている。出す順番が逆であるとか、出し過ぎる、遅すぎるのではないかなという意見もあるが、そういうところを踏まえて1年半取り組んできたところである。案をお示しさせていただいたことに対し、これだけの反響があるということは、逆に私どもとしては、良かったのかなというような思いもある。この計画を何とか実行性のあるものにしたいと考えている。
委員	・広報等でいろいろと周知されたと思うが、それがどこまで浸透していたのか。いろいろ努力はされていると思うが、それが広く行き渡っていなかったというところに、このような波紋が起きたのではないかなと思う。
部長	・今回、非常に積極的な取組の一つだったと思っているのが、概要版を全戸に配布させていただいたことである。これまで市ではこのようなことはやってなかったと思う。市民の方には、年末にその概要版が手元にあるので、それをしっかり読んでいただくか、読んでいただかないかというようなところは、今度は市民の方の意識であると思うので、市が全てこういうことに取り組むのではなくて、使っていただく市の施設であるので、市民の方にも是非関心を持っていただいて、これを進めていかないと、いつまでたっても市が一方的にやってしまうということになるかなと思う。是非御一読をいただきたい。ただ、加東市のホームページを見ていただくと、公共施設マネジメント白書とか、この概要版のさらに本編が載っておりますが、そのあたりの説明は十分できていなかったと思うので、例えば図書館、公民館などに配架するなど、見ていただける機会を増やしていきたいと考えている。

委員 課長 委員 課長 委員 局長	○取組項目「病院事業の経営健全化」について ・今現在加東市民病院の先生は何人いるのか。 ・27年4月1日がもうすぐ来るが、その時点では常勤医師が10人となる予定である。 ・1億5,000万円の収入があったということであるが、どんなお金がおりてきたのか。 ・市の一般会計から補助として繰り入れてもらっている分である。 ・病院事業の経営健全化というところ、医師の数が減ってきている中で、ものすごく不安な運営を加東市はやられているように個人的に思うがどうか。 ・医者1人につき、年間に約1億2,000万円から1億5,000万円程度の収益を上げているということになる。当然、収益を上げるには、医者の確保が一番であることから、医師の派遣要望や民間医師派遣業者との交渉などを行っている。併せて兵庫県医師会のドクターバンクというものがあるが、そこへ話をしているところである。また、並行して、医師がとれない場合はどうしたらいいのかということも、検討していかなければならないというふうに考えている。もし10人以上医師が確保できないようであれば、10人で経営していけるような体制というものも、十分検討していないといけないと思っている。 4 その他 5 閉会 佐々木副座長 午後5時15分 閉会
--	---